

基本理念

手には技術、頭には知識、患者様には愛を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。今では助産師教育を含む7つの専修学校で育成を行う学院に発展し、そういった創設者の思いが福岡保健学院の『建学の精神』の根底にあります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念 一人間愛・自己実現

福岡保健学院の教育理念は「人間愛と自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

教育目標

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、人々の健康と生活を幅広く理解する能力を養う。
2. 人の痛み・苦しみを共感し、生命の尊厳、人が持つ権利・人格・価値観が尊重できる豊かな人間性を養う。
3. 理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力・問題解決能力を身につけて看護が実践できる。
4. 人々が社会資源をかつようできるよう保健・医療・福祉制度とそれぞれの専門性や役割について理解し、他職種の人々と連携協力するとともにそれらを調整する基礎的能力を養う。
5. 専門職業人としての倫理観を持ち主体的学習と自己成長を促すための建設的態度を培う。
6. 社会の変化に対応できる幅広い視野を持ち、とよような価値観を理解する能力を身につける。

——教育にかける情熱——

学校法人巨樹の会は、創設者である藩池眞澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本学院は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本学院の創設者の願いです。

本学院では、「人間愛と自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育3年間、卒業してからの臨床教育3年間という「6年間一貫教育」をもって、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本学院の専門学校7校の卒業生は約13,000人となり、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔沿革〕

- 平成 2年 4月 学校法人福岡保健学院福岡看護専門学校（3年課程）開校
- 平成 4年 4月 福岡看護専門学校2年課程（夜間定時制）開設
- 平成16年 4月 小倉リハビリテーション学院（理学療法学科・作業療法学科）開校
下関リハビリテーション学院（理学療法学科・作業療法学科）開校
八千代リハビリテーション学院（理学療法学科・作業療法学科）開校
福岡看護専門学校2年課程（通信制）開設
- 平成19年 4月 福岡和白リハビリテーション学院（理学療法学科・作業療法学科）開校
- 平成20年 4月 福岡看護専門学校水巻校（3年課程）開校
- 平成22年 4月 下関リハビリテーション学院に看護学科を開設
名称変更：下関看護リハビリテーション学校へ
- 平成22年 9月 みずまき助産院ひだまりの家を開院
- 平成23年 4月 武雄看護リハビリテーション学校（看護学科・理学療法学科）開校
福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設
名称変更：福岡水巻看護助産学校へ
- 令和2年 4月 学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更